

社団法人 日本循環器学会
2005年度第3回理事会議事録

日 時 2006年(平成18年)1月20日(金) 14時30分～17時00分

場 所 東京国際フォーラム ガラス棟 4F(409)

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-5-1

理事現在数：20名

出席：井上 博、小川 聡、笠貫 宏、北 徹、北畠 顕、北村惣一郎、児玉逸雄、
白土邦男、高野照夫、鄭 忠和、土居義典、永井良三、藤原久義、堀 正二、松崎益徳、
矢野捷介、山口 巖、山口 徹、横山光宏、吉川純一

欠席：なし

その他出席者

監事：島田和幸

幹事：東 秋弘、大津欣也、木原康樹、千田彰一、寺崎文生、西垣和彦、野原隆司、藤田正俊、
松森 昭、湊口信也

ワザバ：中澤 誠(日本小児循環器学会)、幕内晴朗(日本心臓血管外科学会)、村松孝夫(財団法人
日本心臓財団)

事務局：加藤安雄(事務局長)、清水光則(事務局長代理)

・議事

第1号議案 事業報告・事業計画及び収支中間報告・予算案

- 1) 2005年度事業報告及び2006年度事業計画
- 2) 2005年度収支中間報告及び2006年度収支予算案
- 3) 監査報告

第2号議案 新入会員承認

第3号議案 65歳定年制による評議員と正会員代表の選出

第4号議案 委員会および委員の追加

第5号議案 委員会報告

- 1) 総務委員会
- 2) 財務委員会
- 3) 編集委員会
- 4) 学術委員会
- 5) 専門医制度委員会
- 6) 教育研修委員会
- 7) 禁煙推進委員会
- 8) 心肺蘇生法普及委員会
- 9) 健保対策委員会
- 10) 心臓移植委員会
- 11) 医療倫理委員会
- 12) 情報広報委員会
- 13) 国際交流委員会
- 14) 学術集会運営委員会

15) 用語委員会

16) 資料編纂小委員会

第6議案 年次学術集会に関する件

1) 第70回年次学術集会報告

2) 第71回年次学術集会報告

第7議案 その他

1) 日本医学会選挙について

2) 名誉会員の御退会について

3) 2006年度理事会日程について

・議事の経過及び結果

- 1) 定刻になり、北畠理事長が議長となり開会した。
- 2) 藤田総務幹事から、出席者数は定款第25条の定数を満たし、理事会が成立していると報告があった。
- 3) 議長が、議事録署名人として第70回藤原会長と第71回横山会長を指名し、了承された。
- 4) 藤田総務幹事から、配布資料および回覧資料の確認があった。
- 5) 資料に記載の3名の物故会員に対して黙祷が捧げられた。
- 6) 前回理事会議事録の確認がなされた。

第1号議案 事業報告・事業計画及び収支中間報告・予算案

1) 2005年度事業報告及び2006年度事業計画

藤田総務幹事より、2005年度事業報告および2006年度事業計画について資料に沿って説明があり、承認された。

2) 2005年度収支中間報告及び2006年度収支予算案

野原財務幹事より「一般会計」、「専門医特別会計」及び「学術集会特別会計」について、以下の通り報告され、承認された。

2005年度収支報告は、2005年11月末日現在の執行状況について「一般会計」、「専門医特別会計」及び「学術集会特別会計」の3会計について資料に沿って説明があった。

- 1) 一般会計及び専門医会計は特に問題はなく、順調な予算執行状況にあること。
- 2) また、学術集会会計は事業が進行途中であるため経理面の反映がほとんどないが、事業計画が確定しつつあり、当初予算の見直しをしたこと。

2006年度収支予算案について、

1) 2005年度第1回理事会にて設置が承認された予算委員会が、11月に初めて開催されたが、その結果を踏まえて企画立案されていること。

つまり、

- a. 記念事業基金の一部取り崩しを行うが、使用を最小限に留められるよう努力すること。
- b. 『循環器専門医』の制作及び発送費は、全額、専門医会計負担で行うこと。

- c.支部開催のACLS講習会の助成は、地方会開催時に実施されるものに限ること。
 - d.学術集会会計は、事業計画が確定する今秋に補正予算の検討をすること。
 - e.学術集会事業について、「万一、資金不足となった場合の一般会計からの補填」が困難な状況であることの再確認。
- 2)公益法人会計基準が改正されることにより、収支計算書の構成が 事業活動 投資活動 財務活動の 3 区分に分類されていること。
- 3) 9 支部を合算した支部特別会計と地方会特別会計の 2 会計が新たに加わったこと。
- 以上を前提に、一般会計、専門医会計及び学術集会会計の 3 会計の予算根拠について、配布の説明書に沿って詳細に説明がなされた。

また、支部の 2 会計についても、支部長から提出された事業計画及び総括収支予算書について確認がなされた。

3) 監査報告書

島田監事より 2005 年 4 月 1 日から 11 月 30 日までの会計及び業務について、共に妥当、適正に執行されている旨報告があった。

第 2 号議案 新入会員承認

藤田総務幹事より、2005 年 6 月 1 日から同年 12 月 31 日までの新入会員 468 名が資料に基づいて説明され、承認された。

また、過去の新入会員数の比較表も合わせて提示され、新入会を若い先生方に勧めてほしい旨、各理事に要請された。

第 3 号議案 65 歳定年制による評議員と正会員代表の選出

藤田総務幹事より、65 歳定年制に伴う 2005 年度末退任評議員および正会員代表と、その補充となる先生方が資料の通り報告され、承認された。

第 4 号議案 委員会および委員の追加

藤田総務幹事より、新規に WCC 招致準備委員会が設置されたこと、学術集会プログラム委員会に瀧原圭子会員が追加されたことが資料の通り報告され、いずれも承認された。

第 5 号議案 委員会報告

1) 総務委員会

北島委員長から以下の点について報告があった。

会費未納により 2006 年 3 月に退会となる予定の会員について、現在 600 名ほどが挙がっている。これから事務局より順次案内をしていくが、退会者を減らすためにも、関係の先生方でご確認をお願いしたい。

事務局について、法令の変更に伴い 65 歳までの雇用制度が必要となったために、事務局就業規則の変更を検討中である。財務面での検討と合わせて、次回に決定したい。

また北島委員長から以下の点について審議の依頼があった。

2006 年度の名誉会員として、日野原重明特別会員、北島顕理事長、北村惣一郎理事を推薦すること

とした。

日循の事務局について、現在の事務局施設が老朽化及び職員増により狭隘化している。また APSC 事務局も事務局内に置くことになり、別の場所への移転を検討している。現在、負担の増加と経費の削減を合わせて検討しているところであり、また物件の出る時期と理事会開催時期とが必ずしも合わずに良い物件を逃す可能性もあるので、総務委員会に物件の決定権を委ねていただきたい。理事会には、事後に報告させていただく。

年度途中で帰国した会員の支部会費について、年度途中で帰国した場合にはその年度の支部会費は徴収しないこととした。

以上について、承認された。

2) 財務委員会

横山委員長から以下の点について報告があった。

CJ.VOL. 69 及び会告発行費用について、年々、出版費用が増加しており、数年先を見通して対策を検討する必要性がある。

また、昨年比の負担増加原因として、印刷費、ページ数及び発送数の増加に加え、広告料収入の減少が挙げられる。

また横山委員長から以下の点について審議の依頼があった。

2005 年度収支予算について、以下の通り、各会計の補正予算を組んだ。

- 1) 前回理事会で承認された各委員会からの支出要請分として、一般会計で 18 項目、専門医会計は 5 項目修正した。
- 2) 学術集会会計は、70 回記念展示及びライブデモンストレーション等の事業が加わったことや収入面や会場借上費等の支出について全体的に見直しを行った。

(株)エリメントの賛助会員入会があり、合計 87 社になった。

以上について、承認された。

3) 編集委員会

松崎委員長から以下の点について報告があった。

2005 年の投稿論文数は、前年に比べ 100 編強増加した。

Accept から Publication までの日数が、Original Article に関しては、65 日のペースを維持している。Case Report に関しても、昨年半ばより Original Article と同じ日数となった。これにより 10% 代の採択率を少し上げてほしいと思われる。

2005 年は Experimental Investigation の投稿数もかなり増加したが、更に 100 編近くに、citation の増加を期待したい。

2005 年の海外からの投稿数は 200% 以上の増加であったが、相変わらず採択率が低く quality の高い論文の投稿が望まれる。

投稿数が増加したことに伴い、2005 年より 1 号あたりの掲載論文数が増え、出版にかかる費用が増している。今後、採択率を下げ 1 号あたりの掲載論文数を減らすことも検討したい。

過去 2 年間の引用論文数も順調であり、2005 年の Impact Factor の上昇が期待される。

また松崎委員長から以下の点について審議の依頼があった。

第2回 Circulation Journal Award は、最終審査の結果、

Clinical Investigation

最優秀賞：波多野靖幸

優秀賞：中谷矩章

Experimental Investigation

最優秀賞：池田義之

優秀賞：網野真理、谷本圭司

となり、本年に限り Experimental Investigation の優秀賞が2名となった。

以上について、承認された。

4) 学術委員会

堀委員長から以下の点について報告があった。

厚労省から「重篤副作用疾患別対応マニュアル」の Torsades de pointes を含む心室頻拍とうっ血性心不全のこの2つの課題について作成依頼があり、不整脈/電気生理部会：矢野部会長と心不全部会：吉川部会長に3月末までに構成案を作成いただきくこととした。しかし、2006年度から委員会のメンバーも変わる可能性があるため、2006年度から新体制のもと、2006年度中にそのマニュアルを作成する。年間250万円の予算がある。

循環器疾患診療実態調査（主査：吉川純一先生）について、現在の登録状況（1162施設）報告とともに、専門医施設認定において促進的に考慮いただくよう、今後、専門医制度委員会と相談をしながら進めていく。

日本医師会治験促進センターの平成18年度の治験推進研究事業（医師主導型治験）申請があった。逐次、プロジェクトがあれば応募していただきたい。

また堀委員長から以下の点について審議の依頼があった。

2006年度に発足する新規4ガイドラインが決定した。

- ・「大動脈炎、血管炎の診療ガイドライン」（班長：尾崎承一先生（聖マリアンナ医科大学）予定）
- ・「脳血管障害、腎機能障害、末梢血管障害を合併した心疾患の管理に関するガイドライン」（班長：堀正二先生（大阪大学循環器内科））
- ・「ペースメーカー、ICD、CRTを受けた患者の社会復帰・就職に関するガイドライン」（班長：奥村謙先生（弘前大学循環器内科））
- ・「冠攣縮性狭心症の診断と治療に関するガイドライン」（班長：小川久雄先生（熊本大学循環器病態学））

2006年度に活動する2ガイドライン改訂版の班構成が決定した。

- ・「肥大型心筋症の診療に関するガイドライン」（班長：土居義則先生（高知大学老年病科循環器科））
- ・「心疾患における運動療法に関するガイドライン」（班長：野原隆二先生（田附興風会医学研究所北野病院循環器内科））

「心筋梗塞二次予防ガイドライン」改訂版（班長：石川欽司先生（近畿大学循環器内科））の参加学会に日本心臓リハビリテーション学会も加わることになった。

大規模臨床試験後援申請の「アスピリンレジスタンスの実態ならびにその遺伝子背景に関する研究（ProGEAR study）」（国立循環器病センター研究所：宮田茂樹先生）について公的資金も得られて

いるということで、後援するということが決まった。
以上について、承認された。

5) 専門医制度委員会

北畠委員長から以下の点について報告があった。

専門医のあり方について、下記2点を今後も引き続き検討していく。

- 1) 65歳以上の専門医単位取得免除制度について
- 2) 保留制度の廃止について

また白土委員長から以下の点について審議の依頼があった。

第17回(2006年度)の循環器専門医試験の試験委員・問題作成委員は資料のとおりである。

第70回学術集会プログラムの単位付与について

- 1) 「ハート博2006」の参加者に対しては2単位の研修単位付与を行う。
- 2) ライブデモンストレーションの参加者に対しては学術集会の参加単位とは別に3点を与える。

専門医制度規則の改定について

専門医制度規則第3条に「但し、合否通知は合否決定後、速やかに行う」という文言が追加された。

総会議案書への認定更新者掲載について

循環器専門医認定更新日が3月1日から4月1日に変更されたことにより、議案書原稿締切までに認定更新者が確定できない為、総会議案書には専門医番号、氏名、都道府県の一覧は掲載しない。但し、専門医を認定する学会として、認定者の名簿を全く公開しないのは学会の透明性に欠けるとともに、社会貢献という立場もあるので、今後どのような方法で専門医名簿を公開するかについては引き続き検討する。

以上について、承認された。

6) 教育研修委員会

北委員長から以下の点について審議の依頼があった。

AED 検討委員会報告

- 1) 硝酸薬貼付剤の貼付け場所の提言をおこなったが、製薬業界から添付文書の内容をさらに検討したいとの要望があった。
- 2) 心臓震盪の青少年急死に関する調査を消防庁に依頼したが、担当の総務省や関係する厚生労働省ともストレートに議論が交わっていない。
- 3) AED 設置場所マップや検証システムについて救急医療財団 AED 普及・啓発検討委員会において協議中。

第2回循環器専門医を志す研修医のための卒後セミナーを2006年7月9日(日)に大阪・千里ライフサイエンスセンターで開催したい。

第35回循環器教育セッションの企画を検討し、次の3つを委員会案とした。

- 1) ACS の治療戦略を考える
- 2) PCI、CABG
- 3) 心血管再生医療の展開

2006年度に製作する循環器研修ビジュアルシリーズを次の2案とした。

1) メタボリック・シンドロームの診断と治療（監修者案：島本和明先生）

2) カテーテル・アブレーションによる不整脈の治療（監修者案：相澤義房先生）

全国医学部長病院長会議より「医学教育モデル・コア・カリキュラム」についての提言を求められ、委員から循環器系の問題として基礎と臨床のリンクする教育システムが弱いとの意見があり、とりまとめて1月27日（金）に提出する予定。

以上について、承認された。

7) 禁煙推進委員会

鄭委員長から以下の点について報告があった。

第70回記念日本循環器学会総会・学術集会の際に開催される第5回の禁煙推進セミナー、第4回禁煙推進市民公開講座について資料に沿ってタイトル及び演者の報告があった。

禁煙治療が2006年4月から保険適用になることを受けて「禁煙治療のための標準手順書」の作成に当委員会としても作成者差より説明を受けた上で手順書の完成のために協力をしたことと、これまでの経緯が説明された。完成した手順書については次回3月の理事会において完成したものの承認をしてもらい、そのことが保険適用にスタートする大きなきっかけになる予定である。

8) 心肺蘇生法普及委員会

笠貫委員長から以下の点について報告があった。

現在、日本救急医療財団がガイドライン策定小委員会をつくり、日本独自のガイドライン作成を進めており、2006年3月には発表される予定。

ACLS 専門医必修化について、トレーニングセンター、トレーニングサイトの設立の方法によって、現在受講者ひとりあたり15,000円の開催補助金を支出していることをとりやめ、講習費によって黒字化することもできる。具体的なプランについては次回理事会にて提案する。

9) 健保対策委員会

山口徹委員長から以下の点について報告があった。

平成18年度の診療報酬改定については、12月に資料の通り一次審査の結果が出ている。ただしここにあるものが全て採用されるわけではない。心臓移植、施設基準の撤廃、経皮的心房中隔欠損症の閉鎖、禁煙指導については採用されるようである。

DPCについても大きく見直しがある予定である。EPS検査、アイソトープ検査については改善が見込まれている。

10) 心臓移植委員会

藤原委員長から以下の点について報告があった。

2005年12月31日現在の心臓移植および心肺同時移植適応検討の状況については資料のとおりである。

臓器移植法の改正が国会で通れば、日本の脳死移植の状況が大きく変わるので、これまでの移植法では対応できなかった問題などについて検討をしていく。

また藤原委員長から以下の点について審議の依頼があった。

本学会も参加している臓器移植関連は学会協議会が、今期の国会に向けて臓器移植法改正に関する要望書をまとめている。内容については「現在は、本人の臓器提供に関する意思表示が必須であるが、本人が臓器提供の意思を表示している場合あるいは当該意思がないことを表示している以外の場合には、年齢にかかわらず遺族の意思により臓器提供を行いうる」との趣旨である。

以上について、当会もその趣旨に賛同し、学会名を連ねる旨承認された。

11) 医療倫理委員会

矢野委員長から以下の点について報告があった。

第70回日本循環器学会年次学術集会時に、委員会主催の講演会「最近の医療訴訟における裁判所の傾向」が、仁邦法律事務所 加藤済仁先生を迎え開催される。

2005年10月より、日本循環器学会ホームページ 委員会主催コンテンツがリニューアルされアクセス数も順調に伸びている。今後、開催講演会の内容掲載、関連リンク集の拡充についても行っていく。

裁判所より依頼の鑑定人推薦業務について、現在1件の案件があり、3名の意見人に意見を依頼中

12) 情報広報委員会

永井委員長から以下の点について報告があった。

第70回学術集会から、「学術集会カウントダウンメール」の配信を開始した。メール上にはバナー広告を掲載しており、1社1枠50万円で、1回につき2枠限定となる。月2回配信する。また学術集会会期後にはサテライトセミナー協賛企業に協力を募って、セミナー内容についてインターネット配信する企画を予定している。広告料・許諾料として1社あたり100万円を予定している。

学術集会時に日本循環器学会ブースを出展し、第70回記念ピンバッジやその他の企画を出展する。

13) 国際交流委員会

小川委員長から以下の点について報告があった。

「国際留学生 YIA」について5名のファイナリストが選ばれており、学術集会会期中の3月24日(金)にファイナリストから最優秀賞1名と優秀賞4名が決定する予定である。

また小川委員長から以下の点について審議の依頼があった。

KSC/JCS Joint Symposium について、学術集会プログラム小委員会及び学術集会運営委員会より APSC-JCS Joint Symposium と KSC-JCS Joint Symposium を並存・開催させることは主宰会長や日循の負担が大きいとの指摘があり、関係委員会である当委員会にて両セッションの合体化も含めて検討を願うとの依頼があった旨が報告され、検討された結果、当委員会としても今年度韓国での開催について現時点で連絡が全くないことも含め、万一、今後 KSC から今年の招待が届けば受けざるをえないが、少なくとも来年度から日本で開催する KSC-JCS Joint Symposium については発展的に中止し、日循総会時に開催される APSC-JCS Joint Symposium に何らかの形で統合する事に決定された。また、KSC が従来通りの形で隔年の日本での開催を希望される場合には、日循とは運営上も経費的にも離れた形でスポンサーシップをつけて開催する事も考慮していくこととなった。

WCC の招致準備委員会について下記の通り報告があった。

1) 日本循環器学会単独ではなく日本心臓財団との協力のもと招致を進めていく方向で資料の通り日本

心臓財団、志立理事長と篠山先生、日本循環器学会、北畠理事長と小川委員長の4名の署名の入った2005年12月5日付けで作成したレターを2005年12月28日にWHFのPresidentであるDr. Valentin FusterとChief Executive OfficerであるMs. Janet Vouteへ資料とともに送付した。

- 2) 2006年の9月にバルセロナで開催されるWCCの総会にて招致のプレゼンテーションを行う予定であるが、会長候補についてはWCCが日本開催に決定するまでは必ずしも決める必要はないとのWHF関係者の意見もあり、会長決定についてはしばらくは保留とすることとなった。
- 3) 招致委員会委員については、来年度の編成にともない次期理事長、学術委員長、総務委員長、国際交流委員長にお願いするが、現委員の先生方にも留任頂くことを理事会で承認を求めることとなった。
- 4) WCC招致準備にかかる費用について今後、正式に予算を組むことが決定された。

APSC事務局及び2009年Asian Pacific Congress of Cardiology開催誘致立候補結果報告について下記の通り報告があった。

- 1) 2006年4月1日付けでAPSCの事務局が日本に置かれることが決定し、Secretary Generalを北畠理事長、Treasurerを松森委員とすることが報告され、事務局受け入れにあたっての内規についての別紙配布資料に沿って説明があった。
- 2) 2009年に日本でAPCCを開催することがインドのムンバイで行われたAPCCの総会で決定されたことが配布資料「APCCムンバイでの総会要旨」に沿って報告された。また、2009年のAPCC会長として北畠理事長を推薦することについて理事会で承認を依頼し、推薦するレターをAPSCに送付することとなった。

以上について、承認された。

14) 学術集会運営委員会

井上委員長から以下の点について審議の依頼があった。

従来、特別講演の演者謝金を美甘レクチャーと同様3,000USDとしていたが、第71回より2,000USDに改訂する。

理事懇親会、会長招宴の対象者について、元理事長が名誉会員になっていない時期があり得るためリスト作成の際に注意を要する。

「理事会出席者への配付物」と「講演記念品」について一定の基準で統一した。

第70回の採択演題の中で日本心臓病学会の日本語の抄録がそのまま英文になったものが同じ著者から登録されていたものがあった。藤原会長がその著者と連絡を取り、自主的な取り下げ演題となった。また、同じ演題をカテゴリを変えて重複登録しているケースもあった。これらについて委員会として今後、対策を講じたい。

第70回の前日のライブ・デモンストレーションは学会参加費を支払った者が出席できることとした。

第70回から内科学会にならって、新たに前期研修医の参加費を無料とした。

以上について、承認された。

15) 用語委員会

山口巖委員長から以下の点について報告があった。

用語実務委員による全体の偏りの見直し、統一の作業をすませ、3月中に最終稿としたい旨の報告があった。

初版と比べ 5000 語から 17000 語に増加、会員数も倍増、50 数名の他学会の合同委員会での実務は総経費の増加となり、財務的な改善を検討中であることも報告された。

16) 資料編纂小委員会

藤原委員長から以下の点について報告があった。

70 年記念冊子『日本循環器学会 70 年のあゆみ(仮)』は、ほぼ出来上がりつつあり、最終調整を行っている。

70 回記念学術集会において行う資料展示を行うので、たくさんの先生方にご参加頂きたい。なお展示の費用約一千万円については学術集会会長の責任で負担する。

第 6 号議案 年次学術集会に関する件

1) 第 70 回年次学術集会報告

第 70 回学術集会藤原久義会長より以下の通り報告があった。

一般演題 3833 題の内、国内から 3668 題、海外から 165 題で、国内からは 2128 題を採用(採択率が 58%)、海外からは 156 題を採用(採択率 94.5%)した。

参加費について、前期の研修医は無料(プログラム集配布)とした。

第 31 回日本心臓財団佐藤賞には、山田芳司先生(三重大学生命科学研究支援センターヒト機能ゲノミクス部門)が決定した。

コメディカルセッションについて、演題応募が 231 題であった。

ライブ・デモンストレーションも学術集会前日に開催する。

2) 第 71 回年次学術集会報告

第 71 回学術集会横山光宏会長より以下の通り報告があった。

2007 年 3 月 15 日~17 日、神戸国際会議場で開催する。

学術集会プログラム小委員会：和泉委員長と学術集会運営委員：会井上委員長の協力を得て、準備を行っている。

プレナリーセッション、シンポジウムのタイトルと座長(会長枠を含む)が決定した。

第 7 号議案 その他

1) 日本医学会選挙について

議長より、日本医学会から会長・副会長候補者の推薦依頼があり、これまでの経過を考えて現在第 5 部会の幹事である矢崎義雄名誉会員を副会長候補として推薦した旨報告があった。

2) 名誉会員の御退会について

議長より、水野康名誉会員から御退会を希望する旨連絡があったことが報告された。

3) 2006 年度理事会日程について

議長より、2006 年度の理事会開催日程について報告があった。第 2 回理事会の開催日については、他学会の日程と重なっている旨指摘があり、10 月 27 日に開催することとした。

以上をもって本日の議事を終了し、議長から長時間の議事についての謝辞があり、閉会した。

上記の議事の経過及び結果を明らかにするため、この議事録を作成し議長並びに議事録署名人、これに署名押印する。

2006年1月20日

社団法人 日本循環器学会 2005年度第3回理事会

議 長 北 畠 顕

議事録署名人 藤 原 久 義

同 横 山 光 宏